

3学年 学年だより



令和5年11月30日
大和市立つきみ野中学校
第17号



合唱コンクール

10月25日(水)グリーンホールで行われた合唱コンクール。午前中は1・2年生の発表を聞きながら、自分たちの1年前、2年前を思い出した生徒も多かったのではないのでしょうか。クラスみんなで隣の公園でお弁当を食べ、迎える自分たちの出番に向けて、短い時間ではありましたが、声だしの時間は真剣そのものでした。午後のスタートは学年合唱で始まりました。広いホールに響いた『With You Smile』は、本当に美しく、青学年のみんなの成長を感じました。そしてクラス合唱。どのクラスもリハーサルからの成長ぶりが素晴らしく、保護者の皆様にも楽しんでいただけたことと思います。曲を作り上げるまでには、各クラスそれぞれに様々なドラマがあったと思います。担任の先生と共に頑張っている姿は昨年までと変わりありませんでしたが、今年は自ら考え工夫する姿をたくさん見かけました。だからこそ、あんなに素敵な合唱になったのでしょうか。今年度は代表者による英語の発表や吹奏楽部の演奏もあり、楽しい一日となりました。青学年のみなさん、運動会に続き、感動をありがとう！

文化発表会スタッフ

暗唱発表

司会者
← 3 0 1
3 0 6 →
← 3 0 9
3 0 8 →

会長 3 0 3 のことば

イングリッシュ・パフォーマンス

吹奏楽部の演奏



優秀賞 6 組



最優秀賞 4 組



作文紹介

～今回は4・5・8・9組です！～

『涙の合唱』

4組

1年で一度しかない合唱コンクール。僕にはいろいろな思いがあった。僕は指揮者という、みんなの前で自分の動きに合わせて歌ってもらう仕事をしてきた。自分が指揮者になったとき、正直不安しか感じられなかった。自分にこの仕事は務まるのだろうかと何度も思ったときもあったし、他の人の方が上手に指揮ができるんじゃないかと思ったときもある。だが、そこで不安になっていたら本番ではもっと不安になるとそのとき思った。何度も練習した。先生の指導も思い出しながら、何十回、何百回と練習をした。

そして迎えた当日。僕は実行委員なので朝早くから会場での準備をしていた。どんどんみんなが会場に入ってきて、いつもと場所が違うからだろうか、心臓の音しか聞こえてこなかった。1、2年の合唱が終了し、3年生の番になった。自分の前のクラスが歌っているとき、緊張で手が震えていた。でももう本番。全力で自分の力を出すしかない。ステージに上がる番だ。全員が並び、曲の紹介を始めた。指揮台に上がったとき、僕はどんな顔をしていたのだろうか。無表情なのか笑っていたのか。笑っていただろう。何も覚えていない。それだけ緊張していたのだ。

全ての合唱が終了し、結果発表のときがきた。自分たちが優秀賞に選ばれた。とてもうれしかった。他にも上手なクラスは山ほどいた。最優秀賞の発表のとき、自分のクラスの名が出た。僕は泣いていた。呼吸も浅くなり、目が開けなかった。僕はステージに上がると、友達が抱いてくれた。正直、そこでも一番泣いていたと思っている。感無量だ。

いろいろな人の協力によりこの合唱コンクールが行われている。その人たちにも感謝をしたい。何よりも、みんなの力で取れた賞だと思う。次の合唱でもより良いものにしていきたい。

『予感』

5組

三年生の最後の合唱コンクールに、私は伴奏者として参加した。

当日を迎えるまでには大変なことがたくさんあった。まず、伴奏者になること。一年生のころにも一度経験したが、夏休みから練習してもミスなく止まらずに弾くことは、三年生になっても難しかった。次にパートリーダー。パートのみんなやクラスのみんなをまとめて指示をする役だ。誰かに頼ってばかりだった私は、パートリーダーを三年間の中で初めてやって、本当に大変さを痛感し

た。実際に練習では、まとめるのが下手でうまく伝わらなかったり、ピアノでミスしたりと大変なことばかりだった。それでも特にソプラノの子が熱心に話を聞いてくれたり、指示したことをすぐに実行してくれたり、ピアノをミスしてしまった時には励ましてくれた。最初は周りのクラスよりおくれていたから心配だった。けれど、毎日、クラスの合唱が少しずつ上手になっていくことがとても嬉しかった。合唱コンクールでは優秀賞などは取れなかったけど、五組なりの合唱ができて良かったと思う。

今までの行事の中で、本当に一番やりがいがあって、感動的だったと思う。練習でふざけ合ったのも全部思い出になった。合唱コンクールは終わってしまったけれど、受験に向けてクラスのみんなでがんばりたい。最後に三年五組のみんな、今まで私についてきてくれて、協力してくれて本当にありがとう。

『心を込めた「手紙」』

8組

三年間合唱実行委員としてやってきたことを、全て出し切ろうと思った今年の合唱。そう思わせてくれたのは、八組のみんなだった。

「笑顔を忘れず、心に響く歌を」が八組の合言葉である。八組らしい合唱のために試行錯誤した。練習方法をもっと効率的なものにすればよかったと反省する日もあったし、みんなが同じことを意識して練習できていて嬉しいと思う日もあった。私は主に技術面についての指示をしていたが、それだけでは八組の合唱はうまくいかなかっただろう。

相方は、クラスの雰囲気づくりをしてくれた。みんなを「気持ち」の面で支えてくれたのだ。技術の向上にともなって、「合唱を成功させる」というみんなの熱意が伝わってきた。パートリーダーも実行委員が見ることのできない細かいところを指示してくれて、サポートしてくれた。相方とパートリーダーがいたから、みんな頑張ることができたのだと思う。

前に立って指揮する私たちについてきてくれた仲間たちが誇らしい。本当に一人欠かさず全員が必死に、一生懸命になって合唱に取り組んでくれたことが何より嬉しかった。練習も本番も、一人一人の合唱を成功させようという気持ちが見えて、「八組で良かった」と、強く思った。

コンクールでは優秀賞、最優秀賞をもらえなくて悔しい思いはある。けれど、上手く歌うことよりも全員が心を通じ合わせながら歌うことを大切にして合唱ができて、楽しかったし、感動した。八組らしい合唱だと強く感じた。練習の過程をずっと見てきた瀬沼先生には、心に響く「手紙」を届けられた本番だったと私は思う。八組のみんなには、本当に感謝しかない。

『中学校最後の文化発表会』

9組

みんなで感動する。それが今回の9組の合唱目標だった。たった1日のためだけに、何時間も練習してきた。9組の全力を出しきれた合唱だったと、終わった今感じている。

運動会や中間テストが終わったあと、すぐに合唱練習が始まった。まだ疲れがとれきってなかったころの練習だったから、しんどい時もあった。最初のころは本当に声が出なかった。9組で歌った「ほらね、」はソプラノを歌っていたが、特別高い音があるわけでもなかったから、声がとてもはりにくくきつかった。しかし、練習をたくさんするにつれて、声もはりやすくなってきて声も出せるようになった。声のまとまりがだんだん良くなっていき、最初の合唱とはみちがえるほどうまくなった。結果的には優秀賞はとれなかった。くやしきもあつたが、9組のみんなと最高の合唱が作れたことがなによりもうれしかった。みんなで感動。目標を達成することができたと思う。

お知らせ

1. 卒業式が3月12日の(火)に決定しました。保護者の参列等の詳細につきましては決まり次第お知らせいたします。
2. 12月1日(金)からの三者面談で最終進路希望調査に押印していただきますので、印鑑をご持参ください。
3. 卒業アルバムの代金5,000円は1月の諸費と合わせて集金させていただきます。ご事情により卒業アルバムを購入しないご家庭がありましたら、12月1日(金)~7日(木)の三者面談時に担任にお知らせください。